

シマフクロウの概要

1. 分類

シマフクロウ(フクロウ目フクロウ科)
絶滅危惧 IA類 (環境省レッドリスト 2017)



2. 形態的特徴及び生物学的特性

- ・全長 65～70 cm、翼開長 180 cmに達する日本最大のフクロウ。
- ・河川や湖沼周辺の森林（広葉樹自然林、針広混交林）に生息、広葉樹大木の樹洞に営巣。
- ・魚類を主食とするが、両生類、甲殻類、鳥類、小型ほ乳類等も捕食。

3. 分布状況

- ・国内では北海道及び北方領土に分布。北海道では、道東地域を中心に生息が確認。

4. 現在の生息個体数

- ・道内でおよそ 165 羽程度（確認個体数=つがい数（標識実績のあるつがい数+標識実績のないつがい数）×2 + 標識ヒナ数とし、平成 29 年度の確認個体数 = (51 + 21) × 2 + 21 = 165 羽）を確認。
- ・そのうちのおよそ半数が知床半島に分布。

5. 生息を脅かす要因

- ・森林から農地への土地利用転換に伴う生息可能地の減少。
- ・大規模森林伐採による営巣木の消失。
- ・河川改修や水質汚濁、漁業（遡上するサケ、マスの河口部での完全捕獲等）による餌資源の減少。
- ・生息地への人間（カメラマン、バードウォッチャー等）の入り込みによる繁殖への影響、漁網への拘束事故、交通事故及び感電事故等の人的要因の増加。

6. 保護増殖事業の概要及びその効果

- ・昭和 59 年：環境省が冬期人工給餌、人工巣箱設置等の保護事業を開始。
- ・平成 5 年：国内希少野生動植物種に指定。同年保護増殖事業計画（農林水産省、環境省）策定
- ・平成 11 年：シマフクロウ野外つがい形成促進計画（アクションプラン）（環境省）を策定
- ・平成 22 年：飼育下個体群の維持・充実計画書（案）を作成
- ・平成 25 年：シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画を策定
- ・平成 26 年：シマフクロウ放鳥手順を策定
- ・平成 28 年：シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画に係る全体目標を策定

令和3年1月

- 昭和59年以降、関係行政機関、関係者の連携・協力の下、給餌、巣箱の設置等による生息環境の整備を行うとともに、事故防止対策等が継続的に行われてきた。このような状況の下、維持あるいは微増の状態。（保護増殖事業計画策定時（平成5年）の生息数は100羽程度と推定）
- 傷病個体（死体を含む）を保護・回収し、原因究明を行い、対策に活用（図1, 2）。

7. 他法令による保護の状況

- 昭和46年：国の天然記念物に指定。
- 昭和57年：本種の代表的な生息地である知床を「国指定鳥獣保護区」(44,053ha、うち特別保護地区23,630ha)に指定。

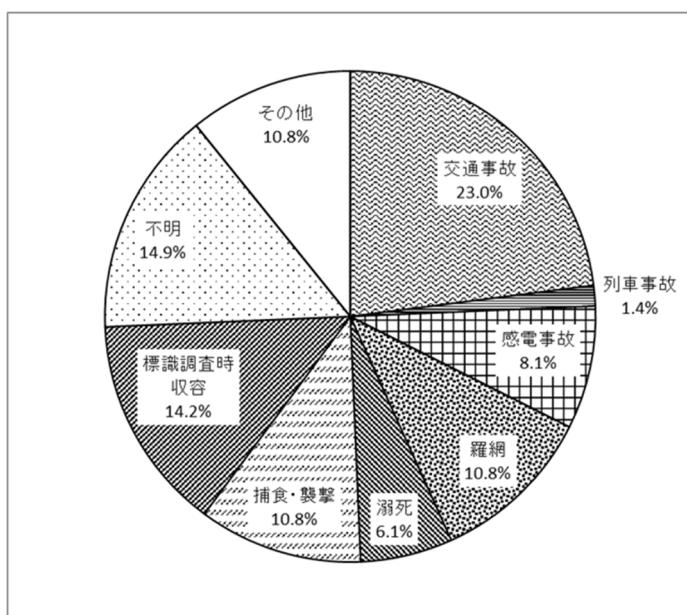


図1 シマフクロウ収容原因別割合（H6-R元年年度）

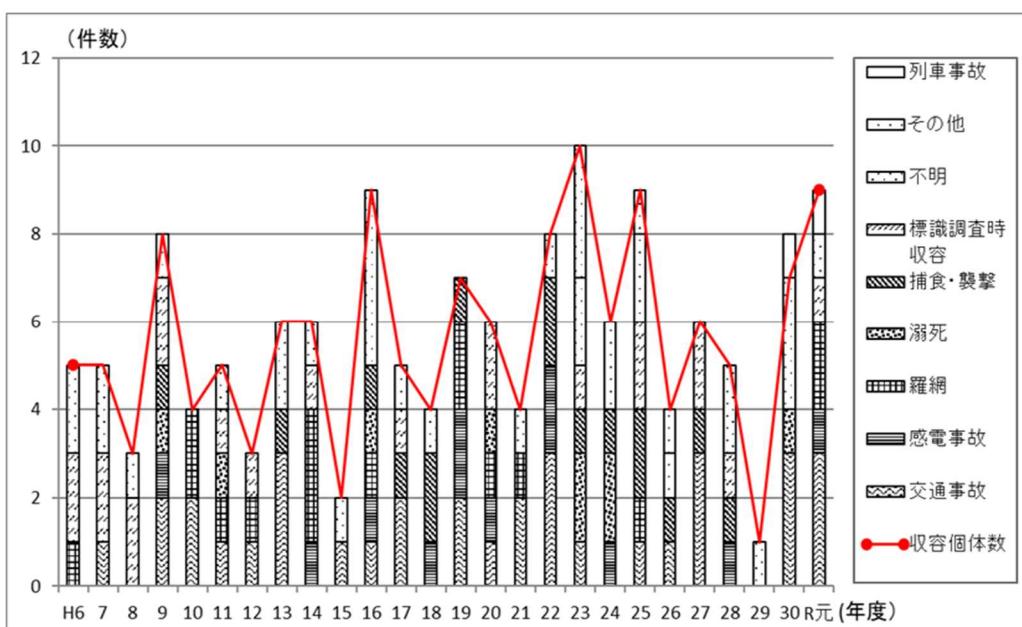


図2 シマフクロウ年度別収容件数（H6-R元年度）